



明けましておめでとうございます。

この度、日本心臓財団は設立以来 45 回目の新しい年を迎えることになりました。皆さまからの多大なご支援をいただき、お陰様で財団の活動を今日まで充実して実施することができました。篤く御礼申し上げます。

新年にあたり、財団が果たすべき役割を考えてまいりました。わが国における人口の高齢化は急速に進展して、昨年には国民の 4 人に 1 人が高齢者となる高齢化率が 25% に達しました。その結果、加齢が最も大きな危険因子である、がん、動脈硬化、さらにはそれに基づく心筋梗塞、脳梗塞などの病気が国民死亡原因の 70% 近くを占めるようになりました。

そこで、高齢でも健やかに暮らすには、このような病気を予防することが大切です。特に、自己管理でコントロールが可能な生活習慣の改善が重要です。

このような状況にあつて、日本心臓財団は、皆さまが健康を増進して健康寿命を延伸するための予防や病気への対応などについての適切な情報をお伝えする啓発活動を、今日まで幅広く展開してまいりました。特に、心臓病を中心とした病気に関するご質問に専門家が分かりやすくお答えする「セカンドオピニオン相談窓口」をはじめとする当財団ホームページには一日 7000 件を超えるアクセスがあり、多くの方々のお役に立っておりますが、今後さらに内容を充実させていきたいと思っています。

一方、創刊 46 年を迎えた、循環器専門誌「心臓」には、多くの若手専門医からの症例報告が投稿されています。昨年より、全国の循環器科教室や病院の医師の皆さまが賛助会員になっていただき、さらなる発展が期待されています。

そして、財団の学術的な活動である循環器病の予防や病因の解明、そして治療や診断法の開発に関する研究助成、若手研究者の海外留学の支援などもさらに充実し、実施していきたく存じております。

このような活動は、全て皆さまからのご寄附があつてはじめて実施が可能となります。今後ともよろしくご支援いただきますようお願い申し上げます。

最後に、皆さまにとりまして 2014 年が、より良き年となりますよう心からお祈り申し上げます。

公益財団法人 日本心臓財団  
理事長 矢崎 義雄

